

# 基本構想 「将来像」について

## 1 将来像についての意見

### (1) 市民から出た意見

#### ア 主なキーワード

- 住みたいまち／暮らしやすいまち／戻ってきたいまち／温かいまち
- つながり／みどり／育む／ふるさと／共生

#### イ 市民と検討した将来像の候補（案）の一部

- きづき、きずく。
- 手と手で創造 活緑のまち 長久手
- 一步前へ、二歩未来へ。
- 育む“わ”～笑・和・輪・羽・話～
- けもの道をいく。
- 冒険の主役はぼくら ながくて未来図

### (2) 職員から出た主なキーワード

- つながり／みどり／幸せ／ふるさと／定住促進／物語があるまち

## 2 1を踏まえた将来像の考え方

(1) 市民・職員から多く出たキーワードは、「つながり」「みどり」「ふるさと」

(2) 市民と検討した候補案から「これから新たにまちをつくっていく」とイメージできるもの。

(3) 第1次総合計画からの積み上げを意識し、次の段階へ向かうためにふさわしいもの。

⇒第1～3次では、土地区画整理事業等により「自然との調和」を方針として掲げつつ、「住宅都市」としての骨格を固める

⇒第4～5次では、愛・地球博を契機に「交流都市」として発展

⇒第6次からは、

- ・現状の課題を捉え、今後10年間で重視することを示す

＝地域コミュニティを土台にまちをつくっていく ⇒「つながり」づくり

- ・5次までに培った基盤を活かす⇒「みどり」を次世代へつなぐ

(4) 平成28年に、「第2次まちづくり行程表」で掲げたまちづくりの方針『市民主体で実現する「幸せが実感できるまち」』から、今後10年も、多くの市民が「幸せ」を感じられるまちを目指す。

### 3 将来像の案

#### (1) 将来像に込めた思い

本市は、名古屋市近郊の恵まれた立地を活かした良好な住環境の整備と同時に、開発と保全のバランスに配慮した「自然との調和」をまちづくりの方針と掲げ発展し、今でも、整備された市街地と自然豊かな田園風景とのバランスが保たれています。

今を生きる私たちは、この大事に育まれてきたまちを受け継ぎ、また次の世代へつないでいかなければなりません。しかし、約50年で急激に発展し、人口も5倍以上になり、人の入れ替わりも多いこのまちは、ともすると、地域のつながりも希薄で、愛着もない、そのようなまちになりかねません。

先人たちが築いてきたまちを、次の世代、その次の世代にも愛着を感じてもらい、また、長久手に移り住んで来られた方にも、「このまちがふるさとだ」と思ってもらうためには、「つながり」と「みどり」が重要となります。

人は、人との「つながり」がないと生きていけません。一人ひとりに役割と居場所があり、地域でつながり関わり合う中で、そこに物語が生まれ、幸せが実感できるまちにつながります。

そして、「みどり」についても、先人達が残してくれた豊かな田園や里山の風景を残し、そして、まち全体をみどりあふれる潤いのあるまちにし、次世代へつないでいくことが重要と考えます。

以上の思いから、将来像の（案）を下記のとおり掲げます。

#### (2) 将来像の（案）

ア つながりで実感する 幸せな物語 みどり あふれるふるさと 長久手

イ つながりが織りなす 幸せな物語

みどりがつなぐ みんなのふるさと ながくて

ウ 心から「ふるさと」と思えるまちへ

エ 長く久しく手と手で育む 私たちのふるさと

オ ふるさとにきづき、ふるさとをきずく